

台湾から日本が見習って取り入れていくべき事柄

放送大学 井上智尋

対日理解促進交流プログラム「JENESYS2024Phase II」の一環として、2026年3月18日から24日までの7日間、台湾派遣に参加させていただきました。

本派遣では、防災および環境・エネルギー分野に関する理解を深めることを目的に、関連企業や教育機関を訪問し、各機関の取り組みについて学びました。

また、2026年1月に日本国内で実施された合宿で交流した台湾の学生と再会し、「防災」「環境エネルギー」をテーマとした合同プレゼンテーションを行いました。地理的に近い環境でありながらも、防災において普段から準備されていることや災害等が発生した際の対策などは双方で異なっていたことが印象的でした。そのようなお互いの国の取り入れたい良い取り組みについて話し合い発表を行い、理解を一層深める貴重な機会となりました。

下記に詳しく訪問先企業や各日程で行ったことの報告等を記載させていただきます。

1日目に訪問した国立台湾科技大学では、現地の学生とともに講義を受講しました。台湾の学生とペアを組み、クイズ形式で防災に関する問題に取り組みました。日本と台湾それぞれの防災の特徴に関する内容も含まれており、互いに教え合いながら交流を深められた点が大変印象に残っています。またIT系に強い大学だったこともあり、台湾の学生の3Dプリンターの扱いが手慣れていることも印象的でした。私の出身大学にも3Dプリンターはありましたが、あまり扱っている学生を周りで見ることがありませんでした。このようなデバイスを扱えるからこそ、後に記載する災害対策もIT技術を駆使しているものが多いのだろうと感じました。

2日目には国家原子能科技研究院（NARI）を訪問し、放射線の発生を防ぐ取り組みや、万が一発生した際の対応について学びました。特に、ドローンを活用して放射線の有無を確認するシステムは非常に先進的であり、強い印象を受けました。また放射線技術への理解を深めるため、測定器を用いた宝探し形式の体験プログラムを実施している点も興味深く、一般の方への啓発の工夫として参考になりました。なお、私は東日本大震災における放射線被害を受けた福島県の地方創生を研究テーマとしており、本訪問は自身の研究とも深く関連するものでした。日本では福島第一原子力発電所等を福島県の土地に置くことに対して、当時から住民より反対の声もありました。現在も原子力発電所を復旧させるか否かの問題が日本にはありますが、もし復旧させる場合は放射線被害を出さないためのシステムや、万が一に問題が起こってしまった際の対策技術などを丁寧に説明することが日本には求められていると考えます。

さらに防災チームはGeo Things（究心公益科技）を訪問しました。同企業では、災害時にWi-Fiや通信インフラが不安定な状況でも、LINEを活用して位置情報や現地の状況を共有できるシステムを開発しています。実際に体験したところ、簡単な操作で情報発信が可能であり、他者の投稿に対してコメントもできるなど、SNSのような感覚で利用できる点が

興味深かったです。LINEにも安否確認機能はあり、私たちの周囲の日本人も使用していますが、より詳細な情報共有が可能であり、発展性の高い仕組みであると感じました。

3日目および4日目には、台湾の学生と合同でプレゼンテーションを実施しました。また、学術的な交流に加え、野外BBQやキャンプファイヤーなどを通じて親睦を深める機会もありました。台湾の学生はおもてなしの精神が非常に強く、率先して食事の準備を行っていた姿が印象的でした。台湾の学生たちが来日した際に、私たちももう少し丁寧におもてなしが出来ていればと少し後悔の気持ちもあります。さらにプログラムの時間外でも街を案内していただき、その際にはお勧めの豆花やタピオカなどのお店と一緒に教えてくれたり、困っていることや知りたいことがあったら一緒に考えて協力してくれる国民性を感じました。個人的に日本は他人行儀なところも多いため、彼らから見習わなければならない点がたくさんあると感じました。

5日目には台湾設計研究院（TDRI）を訪問しました。同機関は、デザインの力を活用してSDGsなどの社会課題解決を目指しており、国としてデザインを重視している点に新鮮さを感じました。特に印象に残ったのはゴミ箱のデザインです。上部をあえて斜めにすることで物を置きにくくする工夫が施されており、機能性とデザイン性を両立させた発想に感銘を受けました。

本プログラムを通じて、台湾では日本語を話せる方が多い一方で、日本人学生の中で中国語を話せる人は限られていることに気づきました。台湾の方々が歴史的背景も含め、日本に対して親しみを持ってくださっていることを実感するとともに、日本側からの理解促進の必要性も感じました。また、日本から台湾を訪れる人の割合が比較的少ないという話を伺い、台湾の魅力をより多くの人に伝えていく意義を強く認識しました。

現在、私は社会人学生として出版関連の仕事に携わっており、台湾を紹介するコンテンツ制作にも関わっています。本派遣を通じて得た知識や経験を活かし、防災や日常生活に関する実情など、より正確でリアリティのある情報を発信していきたいと考えています。

また、台湾の学生とはSNSを通じて今後も継続的に交流を図り、疑問点や関心事項について積極的に意見交換を行っていく予定です。

最後に、このような貴重な機会をいただき、誠にありがとうございました。観光では得ることのできない、文化の相互理解や現地学生との交流を通じて、台湾の実情を深く知ることができました。本経験を今後の研究や業務に活かしてまいります。